

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

ペガサス夜間保育園

横浜市港北区新横浜 3-24-14

運営主体：社会福祉法人 山百合会

実施概要	1 ページ
総合評価（評価結果についての講評）	2～3 ページ
評価領域ごとの特記事項	4～5 ページ
分類別評価結果	6～16 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	17～24 ページ
利用者本人調査分析	25～27 ページ
事業者コメント	28 ページ

2009年3月17日公表

実施機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	ペガサス夜間保育園（保育所）	
報告書作成日	2009年2月23日	評価に要した期間 6ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間 08年8月26日～08年12月20日</p>	<p>年度当初から、職員会議において趣旨を確認しあったほか、8月26日の評価機関の説明会には、常勤職員はもとより非常勤職員も参加した。</p> <p>各自が事前に自己評価票を読み込んだ後、土曜日の1日を使って、集中的に話し合った。</p> <p>園長・主任・乳児リーダー・幼児リーダーで、話し合って評価案をまとめ、それについてほかの常勤・非常勤職員にも意見を聞いた。</p> <p>最終的に園長・主任がまとめた。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間 08年12月4日～08年12月16日 09年1月4日～09年1月11日</p>	<p>全園児の保護者（17家族）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配布した。</p> <p>保護者より、返信用封筒で評価機関にあてて、無記名で返送してもらった。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日：第1日 09年1月14日 第2日 09年1月16日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前：11時より、各クラスで保育観察（散歩に同行）。 昼食：昼食の状況を観察。 午後：書類調査。園長・主任に面接調査。 夜間：夕食は、園児と一緒に食べながら観察。 その後21時半ごろまで保育観察。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前：9時より登園の様子を観察。 その後、各クラスで保育観察（散歩に同行）。 昼食：園児と一緒に食べながら観察。 午後：主任、保育士2名（乳児リーダー・幼児リーダー）、栄養士1名、非常勤職員2名に個別に面接調査。 その後、園長に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日：第1日 08年1月14日 第2日 08年1月16日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスで実施し、園外での活動も観察した。</p> <p>幼児を中心に、観察調査の中で、また昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【ペガサス夜間保育園】

【施設の概要】

ペガサス夜間保育園は、社会福祉法人山百合会（本部：横浜市緑区）により、2003年（平成15年）4月に、併設のペガサス新横浜保育園と同時に開設されました。横浜市の認可保育所では唯一の夜間保育園で、平日・土曜日とも8時30分から24時まで開所しています。定員は0歳児から5歳児を対象に20名の小規模園で、乳児（0～2歳児）と幼児（3～5歳児）の2クラス編成で、異年齢児保育を行っています。“子ども達の笑顔と未来のために”を保育理念とし、“子どもたち一人ひとりが、尊厳をもって生きていく力の土台づくりをしていく”、“異年齢の子どもたちが一緒に生活する事で、お互いの存在を認め合う関係をつくる”などを基本方針として掲げ、日々の保育に取り組んでいます。法人は、1978年（昭和53年）3月に設立され、現在当園を含めて6園を運営しています。無認可保育所の時代を含めると、40年以上の保育の歴史があります。

当園は、JR・市営地下鉄「新横浜」駅から徒歩10分、オフィス街の一角にあり、行政機関や横浜アリーナ、マンションに囲まれています。付近にはよく整備された公園が多く、環境にも恵まれています。園舎は4階建て鉄筋コンクリートで、ペガサス新横浜保育園との共有となっていて、3階部分を使用しています。園庭は広くはありませんが、屋上には広いテラスを備えています。保育室は東南に面し、広い窓の明るい造りになっています。

高く評価できる点

1、子どもたちは、ゆったりとした雰囲気の中で過ごしています

朝、幾人かの子どもは9時ごろから登園を始めます。そして、11時を過ぎると次々と子どもたちが登園してきます。乳児クラスでは、子どもたちは保育士に見守られながら、ままごと、マグカップ、人形などで遊び込んでいます。畳を並べて作られたコーナーでは、人形の着せ替えに熱中しています。保育士が手遊びや紙芝居を始めると、畳スペースに行儀良く座り、一緒に手遊びを楽しみ、紙芝居に見入ります。

幼児クラスでは、ブロック、折り紙、お絵かき、紙粘土に熱中します。ブロック遊びでは、大きく複雑なロボットや配達バイクなどもできあがります。子どもたちは、ゆったりした時間の中で遊びを発展させているようです。

乳児クラスも幼児クラスも、少人数の異年齢児混合クラスとなっています。乳児クラスでは、2歳児はお兄さんお姉さんです。散歩へ出かける前のコートを着るときなど、年下の子どもを手伝ってあげようとする自然なしぐさも見られます。幼児クラスでも、散歩のときは年長さんが年少さんの手をとって歩きます。昼食後のひと時では、年長さんが絵本を読んであげていました。

夕食を済ませ、20時を過ぎると、子どもたちは少なくなり静かな雰囲気となります。子どもたちは保育士に絵本を読んでもらったり、一緒にお手玉をしたり、ブロックで遊んだりして過ごします。

2、職員は、家庭的な雰囲気を作り出そうと努めています

保育士は、園の基本方針の1つ“夜間の時間帯を利用する子どもに対しては、家庭での生活の代替と位置づけて、なるべく家庭に近い雰囲気を心がけ、また、子どもが安心して生活できる様に少人数による個別的な援助を行う”に向けて、日々努めています。

午前中は、天候がよければ散歩に出かけます。大半の子どもが11時を過ぎて登園するので、昼食前に外に出て気分を入れ替え、身体を動かし、汗を流し、おいしく食事をするためです。食事は4～6人の少人数でテーブルを囲みます。子どもたちの間に保育士が入り、和やかな雰囲気を形作っています。特に夕食は、職員が家庭的な雰囲気になるように配慮するときです。栄養士もアイデアを出し、みんなで食卓

を囲んで取り分けるバイキング形式も取り入れました。テーブルではなく畳に座り、座卓を囲んでのおでんの夕食もやってみて、好評でした。

夕食を済ますころには、園の内外も静かになり、ゆったりした時間が流れます。20 時ごろには入浴です。職員の連係プレーが大切になります。1 人がお風呂を準備し、お風呂から出てきた子どもを待ち受けてひざに抱いて髪をドライヤーで乾かします。1 人は子どもと一緒に風呂場に入り、スキンシップで体や髪を洗ってあげます。1 人はお風呂に入っていない子どもたちと遊びます。3 人の職員は父・母・兄・姉のような雰囲気です。降園が遅い子どもは、21 時には布団の中に入り、短時間の睡眠となります。

園は、家庭における夜の時間帯を考えて、七夕やお月見、節分などの行事を加えています。以前は、夜店見学も行いました。交流保育としても行ったみかん狩りへも、保護者も含めた親子での参加を促しています。今後とも、長時間保育の状態を踏まえた保育計画の充実が期待されるところです。

3、小規模園なりの機動性も活かして、地域の子育て支援に取り組んでいます

園は、港北区役所や港北区社会福祉協議会などとの情報交換を通して、地域の子育て支援のニーズを把握し、工夫を凝らした地域の子育て支援に取り組んでいます。

例えば、今年度育児講座については、親子で参加できるテーマを選んで3回開催しました。一時保育については、約50名の登録者があり、毎日1、2名を受け入れています。園庭開放やプール開放はペガサス新横浜保育園と連携して行っています。

さらに、今年度の新しい試みとして「公園保育」と名づけて、近くの公園において地域の親子を対象に紙芝居と手遊びを行い、大変興味を持たれて喜ばれたところです。また、地域の親子を運動会へ招待したり、バスで出かけるみかん狩りへ案内したりするなど、交流保育も行っています。

比較的、保育園などの子育て支援施設の少ない新横浜駅前の地域において、園の活動は大変意義深い活動になっていると考えられます。法人設立の原点である経営理念「女性が安心して子どもを産み育てられ、仕事と育児が両立できるような社会を作りたい。そのような社会づくりに保育を通して貢献(支援)する」が実践されています。

さらに期待される点

保護者と子育てについて、さらなる協力・連携を

毎月発行の園だより「まんぼうだより」では、乳児と幼児それぞれのクラスの様子が、保護者へ丁寧に紹介されています。保護者との間では、幼児も含めて全園児について、連絡ノートによる個別の情報交換を行っています。そして保育士は送迎時には、保護者と直接口頭でのコミュニケーションに努めています。

また、懇談会を年に2回開催し、個人面談も行っています。運動会の終了時には、会場の保護者席においての懇談会も設けています。さらに、保護者の保育参加(乳児)、ジャガイモ調理保育参加、プール参観(幼児)などのほか、行事の後にはアンケートをとり、保護者から意見や要望を聞いて園の活動に反映させています。

そうした結果、今回の第三者評価に伴う利用者家族アンケートからも、園に対する保護者の信頼や安心が読み取れるところです。

このように、園として保護者に対するさまざまな働きかけをしていますが、子育てについて、保護者とのさらなる協力・連携が期待されます。2009年4月から施行される新しい保育所保育指針でも、保育園の保護者に対する支援の基本として「保護者の養育力の向上に資する適切な支援」が重要な課題として挙げられています。夜間保育園においては、保護者のもとを離れて、保育園で長時間を過ごす子どもたちの生活を考慮すると、保護者と園とで子どもを育て合うことは、より一層の重点課題として留意する必要があると思われます。

保護者と子育てについて、さらなる協力・連携を重ね、保護者とともに子どもの成長の喜びをより一層共有できることが望まれます。

評価領域ごとの特記事項

【ペガサス夜間保育園】

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って、記載しています。

1、人権の尊重

- ◇ 基本理念として「子ども達の笑顔と未来のために」を掲げ、基本方針を「子どもたち一人ひとりが、尊厳をもって生きていく力の土台づくりをしていく」などとして、日々の保育を実践しています。これらの理念・方針は、利用者本人（子どもたち）を尊重し、子どもの自主性・主体性を育むものになっています。
- ◇ 守秘義務に関しては、個人情報管理規程に基づき、職員に周知しています。また、職員会議で話し合い、認識を高めるようにしています。
- ◇ 虐待についての資料を全職員に配布し、周知しています。虐待が疑わしい場合や明白になった場合には、児童相談所と連携する体制があります。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ◇ 遊具は子どもたちの年齢や発達に合わせて準備されています。自由な時間には一人ひとりの興味を大切に、やりたいことに合わせてコーナーを作ったり、机を設定したりします。子どもたちはそれぞれ好きなコーナーで、絵本、折り紙、ブロック、粘土、はめ絵パズルなどに集中して遊んでいます。ブロックの組み立ては1人で集中する子どももいれば、頭も動くロボットの大作を2~3人で一緒に作ったりもしています。
- ◇ 各クラスに食育計画があり、年齢に応じて食材や調理への興味を持つように計画を立てています。クラスごとにプランターで野菜や花の苗を植え、水をやり、成長を見守り、収穫の喜びを味わっています。さつま芋は干し芋や焼き芋に、枝豆はゆでて塩をふり、ピーマンは焼いたりスタンプにしたりしました。調理の手伝いで、そら豆やとうもろこしの皮むきをしたり、野菜の皮をピーラーでむいたりする経験もしています。
- ◇ 子どもの夕食やお風呂にも職員が連携して対応し、家庭的な雰囲気作りに努めています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 保育計画は、保育の基本理念・方針に基づき、地域の実態、周囲の環境を考慮して作成しています。
- ◇ 保護者からの要望や苦情等を受けて、迅速に対応できるように、苦情解決マニュアルを整備しています。また要望や苦情は、職員会議などでその都度話し合いを持ち、迅速に対応しています。
- ◇ 安全対策・事故対策マニュアルを整備して、安全点検のポイントや事故発生時の対応などを具体的に定め、日々の保育で実践しています。
- ◇ 保護者へは、さまざまな方法による情報提供や、行事等への参加呼びかけを行っていますが、保育園で長時間を過ごす子どもたちの生活を考慮し、保護者と子育てについてさらなる協力・連携が望まれます。

4、地域との交流・連携

- ◇ 地域の子育てを支援するためのサービスとして、月1回の園庭開放、夏のプール開放、一時保育などのほか、交流保育として「運動会」や「みかん狩り」を行っています。
- ◇ 園の育児講座や食育講座について、地域住民に情報提供をしています。
- ◇ 近くにある老人福祉施設へ敬老の日や新年のあいさつで訪問するなど、定期的に交流しています。また、散歩の際には近隣の人々とあいさつを交わす、「公園保育」で顔見知りになった親子と話を交わすなど、子どもと地域との交流を図り、子どもの生活の充実に努めています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 保育園の理念や基本方針は明文化され、全職員に配布し、周知を図っています。また、系列6園で行う園内研修報告会において、理事長より理解を促すための説明を行っています。
- ◇ 組織および職員が不正・不適切な行為を行わないように、守るべき法・規範・倫理等を明文化し、職員に周知しています。
- ◇ 経営、運営状況等の情報は、系列6園で行う園内研修報告会において、職員に説明されています。また、運営状況などについては、利用者にも情報公開できる仕組みになっています。
- ◇ 次代の組織運営に備え、運営や保育サービスプロセスの新たな仕組みの検討、また、計画的な後継者育成に努めています。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 常勤・非常勤職員の研修体制が確立していて、系列6園で行なわれる園内研修、および外部の研修会・研究会等へ積極的に参加しています。また、研修の成果を職場で活かすために、研修の結果を研修報告書にとりまとめ、職員に回覧するとともに職員会議で報告しています。
- ◇ 経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明文化され、本人の適性・経験・能力に応じた役割が与えられています。
- ◇ 実習生受け入れのマニュアルがあり、園長・主任が担当者となって受け入れています。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。



「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育の基本理念として「子ども達の笑顔と未来のために」、基本方針として「子どもたち一人ひとりが、尊厳をもって生きていく力の土台づくりをしていく」「異年齢の子どもたちが一緒に生活する事で、お互いの存在を認め合う関係をつくる」「長時間保育を行う上では、子どもが負担なく生活できるような時間的・空間的な配慮をし、心身ともに健康な生活が送れる様に保障していく」などを掲げ、日々の保育を実践しています。これらの基本理念・基本方針は、利用者本人(子どもたち)を尊重したものになっています。基本理念・方針は明文化され、全職員に配布し周知しています。 ・ 保育計画は、保育の基本方針に基づき、保護者の実状、地域の実態、周囲の環境を考慮して作成しています。 ・ 長時間に及ぶ保育が必要な子どもに対しては、十分に保護者と話し合いながら、子どもが安心して園生活ができるように配慮しています。登園時間は柔軟に対応しているほか、子どもの生活リズムを保障するため、夜間入浴を実施しています。 ・ 保育計画に基づき、年齢ごとの指導計画を作成しています。また、日常の保育を通して子どもの意見や意思をくみ取る努力をし、指導計画に反映させています。
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園前には保護者や子どもと面接を行い、子どもの発達状況や課題を把握しています。 ・ 入園までの生育暦や家庭での状況を、保護者から提出してもらい、日々の保育に活かしています。 ・ 新入園児の受け入れ時の説明会では 主担当保育士が同席し、子どもについての詳細な聞き取りを行い、短縮保育(ならし保育)についても説明しています。また、新入園児に対しては個別に主担当保育士を決めるなどの配慮を行っています。 ・ 子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しています。また、指導計画の評価・改訂にあたっては、保護者との日常的な話し合いや、行事の後の保護者アンケートなどを反映させています。

<p>- 3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園内は、子どもが快適に過ごせるような環境（清潔さ、採光、換気、照明等）となるように配慮しています。 ・ 保育園の屋内・外とも、常に清掃を行い清潔に保っています。 ・ 保育室は冷暖房装置、換気装置、加湿装置が備えられ、適正な温度・湿度を維持しています。また、園舎は南東に面していて、十分な陽光が入っています。陽光がきついときには、ロールカーテンや遮光カーテンで調節しています。 ・ お風呂、シャワー設備があり、チェックシートに基づいて毎日掃除を行い、清潔に努めています。 ・ 低年齢児には、畳を利用したコーナーを設けるなど、小集団保育が行われるように保育室の使い方を工夫しています。 ・ 乳児（0～2歳児）と幼児（3～5歳児）にクラス分けをして異年齢児保育をしているが、自由遊びの時間や誕生会などでは、クラス間の異年齢児交流もあります。
<p>- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども一人ひとりの状況に応じて保育目標を設定し、それに合わせた個別指導計画を作成しています。また、子どもの発達状況に合わせて、個別指導計画を柔軟に変更・見直しています。 ・ 子ども一人ひとりの発達の段階に応じた記録類を整備・保管しています。 ・ 子どもにかかわる個別の記録内容は、全職員が共有できる仕組みになっています。
<p>- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報は、職員間で共有しています。 ・ 配慮を要する子どもの受け入れについての最新情報は、外部研修、園内研修などを通して学習しています。情報は職員会議等を通して職員間で共有し、日々の保育に活かしています。 ・ 障がいの特性を考慮した個別指導計画を作成することになっています。障がい児保育については、全職員で学習し話し合える体制をつくっています。また、法人として障がい児部会を設けて、広く勉強会・研究会を持っています。 ・ アレルギー疾患のある子どもについては、保護者との密接な連携をとって、除去食・代替食を提供しています。 ・ 外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対しては遊びや行動の面において配慮しています。また、保護者との意思疎通においても適切に対応するよう努めています。

- 6 苦情解決体制



- ・ 保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすいように、「園のしおり」で第三者委員の氏名・連絡先を伝え、玄関に意見箱を設置しています。また、保護者懇談会、個人面談、行事の際のアンケート等を通して、保護者の要望や苦情を聞ける仕組みを作っています。
- ・ 要望や苦情等を受けて迅速に対応できるように、苦情解決マニュアルを整備しています。また、保護者からの要望や苦情は、その都度、職員会議などで話し合いを持ち迅速に対応しています。
- ・ なお、過去の苦情に関して、第三者委員に連絡のあったものは、「園のしおり」に記載し保護者へも紹介しています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育室は、低い棚で乳児用スペースと幼児用スペースの2つに仕切られていて、それぞれの保育室が、子どもが主体的に活動できるように配慮されています。 ・ おもちゃの棚は、子どもが自由に好きなものを取り出せるようになっています。また、おもちゃはさまざまな年齢や発達に対応できるように、多様なものが用意されていて、子どもたちの遊び具合を見ながら、意識的に一部を取り替えるなどの配慮が常にされています。 ・ 自由遊びの時間に、子どもたちはそれぞれ好きな遊びをしています。ブロックの組み立ては1人で集中する子どももいれば、2~3人で一緒に、頭も動くロボットの大作を作ったりもしています。また、昼食後に年長児が絵本を読んでいて、それを年少の子どもが2人、両脇で聞いている、ほほ笑ましい光景も見られました。 ・ 各クラスに食育計画があり、年齢に応じて食材や調理への興味を持つように計画を立てています。クラスごとにプランターで野菜や花の苗を植え、水をやり、成長を見守り、収穫の喜びを味わっています。さつま芋は干し芋や焼き芋に、枝豆はゆでて塩をふり、ピーマンは焼いたりスタンプにしたりしました。調理の手伝いで、そら豆やとうもろこしの皮むきをしたり、野菜の皮をピーラーでむいたりする経験もしています。 ・ 乳児はいろいろな動物のしぐさで動く「動物になりきる」遊びやリズム体操、幼児はリズム遊びや楽器遊びで、自由な表現を楽しんでいます。 ・ 常に異年齢の子どもたちが一緒にいるので、保育士は、子どもたちが互いに助け合い協力するような関係になるように配慮しています。当番は意識的に異年齢で組むようにし、自然に年上の子どもが年下の子どもを手伝う機会にしています。 ・ 長時間保育の子どもが多いので、保育士は家庭に近い雰囲気になるように心がけています。特に夜間の時間帯には、子どもがくつろいで過ごせるように、ゆったりとした時間、安心して甘えられる人間関係を大切にしています。 ・ 雨が降らなければ、風が強くても寒くても、調子のすぐれない子どもを除いて、毎日散歩に出かけています。子どもたちが登園してきて集まるのは11時過ぎになりますが、まず戸外に出て目いっぱい体を動かし、それから食事することを原則としています。 ・ 体調がすぐれない子どもがいるときなどは、外遊びと室内遊びの2グループに分けて活動しています。

- 1 保育内容[生活]



- ・ 食事は、子どもによって初めから量を減らすなどして、全部食べられるように配慮しています。保育士が特に励ましたりしなくても、子どもたちは残さずに食べ、お替りをする子どもも多くいました。
- ・ 夕食は月に1回程度バイキング形式にして、子どもが自分で取り分ける形を取り入れています。時には畳で和式の食卓を囲み、おでんを土鍋に入れて持ってくる、というように、家庭的な食事の雰囲気作りを心がけています。
- ・ 保育士がその日の給食の味や子どもの食べ具合をクラスノートに記録し、それを給食室でも参考にして、切り方や盛り付け方などの工夫をしています。アスパラの繊維を少し切って食べやすくしたり、人気メニューであるハンバーグとそうでないメニューの野菜スティックを組み合わせたりするような工夫もしています。また汁物は、鍋を電磁調理器に置いて保温し、お替りも温かいものが飲めるようにしています。
- ・ 懇談会で給食を試食する機会を作り、栄養士からも給食で配慮していることなどを話しています。乳児の離乳食については、定期的に保護者が試食する機会を作り、子どもの口の動かし方や適当な固さなどを伝えていきます。
- ・ 午睡は、眠れない子どもに対しては、体を休めることの大切さを伝え、また早めに起こすなどの対応をしています。乳児については、乳児突然死症候群に関するパンフレットを保護者に配布し、1歳になるぐらいまでベビーセンスを使用しています。それ以後の乳児については5分おきに睡眠状況をチェックしています。
- ・ 排泄は子ども一人ひとりのリズムを大切に、トイレトレーニングは家庭と連絡を密にして、子どものペースに合わせて行っています。連絡帳だけでは十分でないので、必要な時期は日々直接連絡し合っています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [健康管理]



- ・ 健康管理マニュアルがあります。その中に「視診マニュアル」も作成されていて、子ども一人ひとりの日々の健康状態の把握に努めています。
- ・ 一人ひとりの健康診断、歯科健診の結果は、個別の健康台帳にまとめられています。また、園の嘱託医とは、定期的な健診以外にも日常的に連携していて、電話での問い合わせや、法人の看護部会からの相談にも応じてもらっています。
- ・ 感染症に関する必要事項は園のしおりにまとめられていて、保護者に周知しています。また、感染症マニュアルを作成していて、保育中に発症した場合は、それに従って保護者への連絡や対応をしています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [衛生管理]



- ・ 衛生管理マニュアル、感染症マニュアルは、法人の看護部会で毎年見直しがされ、それを職員会議で共有しています。また、感染症が流行すると、その都度、園でも見直して確認しています。
- ・ 清掃は、清掃マニュアルに従って行われ、清掃チェック表にチェックし、それを主任が確認することになっています。実際には、マニュアルで決められた以上の念入りな衛生管理がされています。

- 2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [安全管理]



- ・ 安全対策・事故対応マニュアルは、具体的に、園内事故の場合、園外での事故の場合、災害・大地震発生時の場合などと、あらゆる場合を想定して作成しています。その他、安全点検表で定期的に遊具などもチェックしています。
- ・ 毎月1回避難訓練をしています。さまざまな場合を想定し、火災の場合は火元や時間などの設定を違えて訓練を行っています。また、年に2回総合防災訓練を行っていて、広域避難場所への避難誘導の訓練も実施しています。
- ・ ケガは、転んだ場合など、跡が残っていなくても、日にちがたってから出てくる場合もあるので、必ず記録し、保護者には連絡帳で報告しています。さらに、保育士同士の引き継ぎノートも活用して、保護者に直接口頭でも報告・説明しています。
- ・ 不審者等の侵入防止策として、外門と1階の玄関は電子ロックにしています。その他、門、園舎裏などの4ヶ所に防犯カメラを設置し、モニターで監視するとともに映像を記録しています。登降園時には必ず保護者一人ひとりの出入りのたびに、外門をロックしています。不審者侵入対策について、保護者アンケートでは、9割近い保護者が「満足」、残りの1割の保護者も「どちらかといえば満足」と答えています。

- 3 人権の尊重



- ・ 保育の場面で、子どもをせかしたり強制したりする場面はありませんでした。逆に、子どもの気持ちや状況をあらかじめ想定し、受け止めて、せかしたり強制したりする必要がないように対処・対応している場面が何回も見られました。
- ・ 子どもに威圧感を与えずに1対1で話し合える場所、プライバシーを守れる場所としては、ランチルームや図書室、地域支援室などを、必要に応じて用意することができます。
- ・ 守秘義務の意義や目的について、園長が職員会議で毎年話し、職員に周知を図っています。実習生に対しては、「実習生のしおり」を使用して指導しますが、ここに、心構えとして守るべき義務なども明記されています。
- ・ 保護者に対しては、懇談会や個人面談の際に個人情報の取り扱いについて話し、写真の掲示などについては全員から了解を得ています。
- ・ 虐待の定義について、職員会議で話し、またマニュアルを配布して周知しています。
- ・ 遊びや行事の役割、持ち物、服装などは、性別による区別ではなく、子どもの希望や思いを大事にしています。

- 4 保護者との交流・連携



- ・ 保護者が園の基本方針や目標を理解できるように、入園説明会・新年度説明会や懇談会などで説明しています。また、園だより、クラスだより、給食だより、保健だよりなどで、具体的に園の方針が伝わるように努力しています。
- ・ 保護者との情報交換に配慮して、子どもの送り迎えの時間帯は、担任か副担任の保育士が勤務して保護者と直接話せる体制を作っています。
- ・ 保護者からの相談は原則として担任が受けますが、必要に応じて主任や園長の助言を受けられる体制になっています。
- ・ 子どもに関する情報提供として、保護者懇談会では子どもたちの日常活動の様子をビデオで上映し、保育内容や目的、一人ひとりの成長の様子などを伝えています。
- ・ 懇談会に出席できない保護者に対しては、あらかじめ意向などを聞き、それを懇談会の話の内容に折りこむようにしています。会の内容については後でプリントを配布し、口頭でも伝えています。
- ・ 保護者たちが自主的な活動をしたい場合は、園として場所の提供をすることができます。また、保護者主催の卒園児懇談会には、職員が出席できるように配慮しています。保護者会の設立までには至っていませんが、園としては保護者の活動を支援する姿勢でいます。

評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一時保育などを通して、また、育児講座、交流保育、公園保育などを行った際に、感想を聞いたりアンケートを取ったりなどにより、施設に対する要望や地域の子育て支援ニーズを把握しています。 ・ また、園庭開放やプール開放などの際には育児についての相談を受け、子育て支援ニーズの把握へ反映させています。 ・ 地域の子育てを支援するためのサービスとして、月1回の園庭開放、夏のプール開放、一時保育などのほか、交流保育として「運動会」や「みかん狩り」を行っています。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園の育児講座や食育講座について、地域住民に情報提供をしています。 ・ 月1回の園庭開放の際には、保護者より子育てに関する相談を受ける場合がありますが、定期的な事業としては、育児相談は行っていません。 ・ 相談内容に応じて、港北区福祉保健センター、周辺の医療機関、横浜市総合リハビリテーションセンターなどの関係諸機関・団体との連携ができる体制になっています。

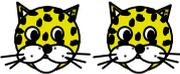
評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 園の行事である「運動会」「みかん狩り」について、玄関前への掲示やちらし配布により情報を提供して、地域の子どもたちを招待するなど、保育園に対する理解促進のための取り組みを行っています。 散歩の際には近隣の人々とあいさつを交わす、「公園保育」で顔見知りになった親子とも話を交わすなど、子どもと地域との交流を図り、子どもの生活の充実に努めています。 また、町内会の盆踊りの行事案内を園内に掲示して、参加を呼びかけています。また、地元の百貨店の絵画コンクールに参加させてもらっています。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 園のパンフレット、法人のホームページ、横浜市こども青少年局のホームページ等により、将来の利用者が関心のある事項について、地域や関係機関に情報を提供しています。 利用希望者の問い合わせにはパンフレットなどを使って、園長・主任が窓口となって対応しています。 利用希望者の園内見学については、保育に支障をきたさない範囲で柔軟に対応しています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア・実習生の受け入れは、マニュアルに基づき行っています。ボランティア・実習生には、事前にオリエンテーションを行い、園の方針、子どもへの配慮等を説明しています。 ボランティアのためのプログラムを作成し、終了時には話し合う機会を設け、感想などを聞いています。 実習生の受け入れは園長・主任が窓口となり進め、実習内容によってはクラス担任が実習生を担当しています。 また、実習目的に応じた効果的な実習が行われるように、実習依頼校からの計画書に沿って、プログラム等を工夫しています。実習の最後に反省会を行い、実習生の気付きや感想を聞いています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園運営に十分な人材構成であるかをチェックして、職員の補充を行うとともに、保育園の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っています。 ・ 常勤職員・非常勤職員の研修体制が確立していて、園内研修、および園外の研修会・研究会等へ積極的に参加しています。また、研修の成果を職場で活かすために、研修の結果を研修報告書にとりまとめ、職員に回覧するとともに職員会議で報告しています。 ・ 非常勤職員にも業務マニュアルなどの文書を配布するとともに、研修会への参加推奨、園内研修への参画など、職員と同様の資質向上へ向けた取り組みを行っています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員会議、リーダー会議などにおける保育についての議論を通して、個々の職員はスキルの問題としてとらえ、自己評価を行い、保育技術の向上に取り組んでいます。 ・ また、系列6園で行っている園内研修の成果は職員会議等で報告して、保育技術の向上に役立てています。 ・ 横浜市総合リハビリテーションセンターの巡回指導を受けるなど、外部から保育の技術の評価・指導等を受ける仕組みがあります。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明文化され、本人の適性・経験・能力に応じた役割が与えられ、職員のやりがいや満足度を高めています。 ・ 職員会議、リーダー会議等を通して、また普段のコミュニケーションの中から示される職員からの業務改善提案は、日々の業務に活かしています。 ・ 園長は、個人面談を通して、職員の満足度・要望などを把握しています。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織および職員が不正・不適切な行為を行わないように、守るべき法・規範・倫理等を明文化し、職員に周知しています。 ・ ゴミの分別を行う、使用済みチラシやカレンダーを使って自由画帳の代用として使うなど、ゴミ減量化・リサイクルのための取り組みを行っています。 ・ また、節電に努める、水道の蛇口は完全に閉めるなどの省エネルギーに取り組んでいます。 ・ 環境に配慮した活動を実践していますが、環境への考え方、取り組みは明文化していません。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園の理念や基本方針は明文化され、全職員に配布し周知を図っています。また、系列6園で行う園内研修報告会において、理事長より職員の理解を促すための説明を行っています。 ・ 園長は、重要な意思決定にあたっては保護者懇談会などを通して、保護者と意見交換を行っています。 ・ 主任は、報告書等の閲覧、各種会議への参画、職員勤務表の作成などを通して、職員の業務状況を把握して、個々の職員の能力や経験にあわせた的確な助言や指導を行っています。 ・ また、主任は、休憩時間や打ち合わせ等の機会を通して、個々の職員が精神的・肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるように配慮しています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園長は、系列6園の園長会、港北区や港北区社会福祉協議会の園長会、全国夜間保育園連盟の役員会などを通して、事業運営に影響のある情報を収集・分析しています。 ・ 園長は、運営面での重要な改善課題については、職員に周知し、園全体の取り組みとしています。 ・ 法人として、保育園運営に関しての中長期的な計画や目標を策定しています。 ・ また、次代の組織運営に備えて運営や保育サービスプロセスの新たな仕組みを検討し、計画的な後継者育成に努めています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

【ペガサス夜間保育園】

- 1、実施期間 2008年12月4日～12月16日、2009年1月4日～1月11日
- 2、実施方法 保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 約58.8%（17枚配付、10枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス...1人、1歳児クラス...1人、2歳児クラス...1人、3歳児クラス...3人、
4歳児クラス...3人、5歳児クラス...1人

ただし同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

文中の「満足」「満足度」は、「満足」「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値です。

設問ごとの特徴

【問1】保育園の基本理念や基本方針について

70%の保護者が「よく知っている」「まあ知っている」と答えています。「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者は全員が、保育目標や保育方針に「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えています。

【問2】入園時の状況について

「見学の受け入れについて」「入園前の見学や説明など、園からの情報提供」「一日の過ごし方についての説明」「費用やきまりに関する説明」については100%の満足度でした。残りの「園の目標や方針についての説明」「子どもの様子や生育歴を聞く対応」の2項目も90%の満足度でした。

【問3】年間の計画について

「年間の保育や行事に保護者の要望が活かされているか」は100%の満足度、「年間の保育や行事についての説明」は90%の満足度でした。

【問4】日常の保育内容「遊び」「生活」について

遊びについては、「クラスの活動や遊び」「戸外遊びを十分しているか」「おもちゃなどが年齢にふさわしく、自由に使えるか」「健康づくりへの取り組み」が100%の満足度でした。「自然に触れたり地域に関わるなどの園外活動」「遊びを通しての友だちや保育者との関わり」は90%の満足度でした。

生活については、「給食の献立内容」「子どもが給食を楽しんでいるか」「基本的な生活習慣の自立への取り組み」「子どもの体調への気配り」が100%の満足度です。「昼寝や休息が子どもの状況に応じて対応されているか」「おむつはずしは、家庭と協力し、子どもの成長に合わせて進めているか」は90%、「保育中のケガに関する説明や対応」は80%の満足度でした。

【問5】快適さや安全対策などについて

「施設設備について」「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」「感染症に関する情報提供」について100%の満足度で、「子どもが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているか」は90%の満足度でした。

【問6】園と保護者との連携・交流について

「園の様子や行事に関する情報提供」が100%の満足度でした。「懇談会などの話し合いの機会」「送り迎えの際の情報交換」「子どもに関する重要な情報の連絡体制」「保護者からの相談事への対応」「お迎えの

時間に対する柔軟な対応」については 90%、「園の行事の開催日や時間帯」は 80%の満足度でした。自由記入欄には、“ 遅い時間に特に柔軟に対応してくれる ” という声がありました。

【問 7】職員への対応について

「子どもが保育園生活を楽しんでいるか」は 100%、他の 4 項目「子どもが大切にされているか」「アレルギーや障がいのある子どもへの対応」「話しやすい雰囲気・態度」「意見や要望への対応」が 90%の満足度でした。

【問 8】保育園を総合的に評価すると

90%の満足度です。詳しくは、「満足」が 90%、「どちらかといえば満足」は 0%です。「どちらかといえば不満」が 10%で、「不満」はありませんでした。

【問 9】園への要望など

“ 家族のようにみてる ” “ アットホームな雰囲気 ” という感謝の声がよせられていました。

まとめ

- ◇ 保育園の目標や方針を「知っている」と答えた保護者は 70%ですが、その全員が方針に「賛同できる」「まあ賛同できる」としています。残りの質問全 38 項目のうち半数近くの 18 項目に、全員が「満足」「どちらかといえば満足」と答えています。その他 18 項目は 90%の満足度で、「保育中のケガに関する説明や対応」「園の行事の開催日や時間帯への配慮」が 80%の満足度でした。
- ◇ アンケートに答えた保護者は 10 名ですが、ほぼ全員が、保育園の方針や保育内容、保護者への対応・配慮、安全対策などに満足しています。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

実施期間： 2008年 12月4日～12月16日

回収率： 58.8%（回収10枚／配布17枚）

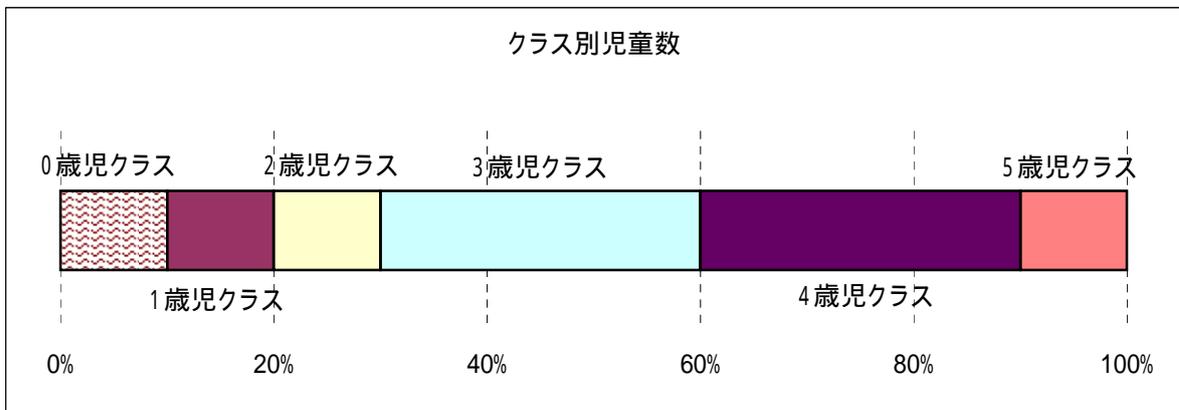
【属性】

クラス別児童数

（人）

合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
10	1	1	1	3	3	1	0

同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どもクラスのクラスについて記入



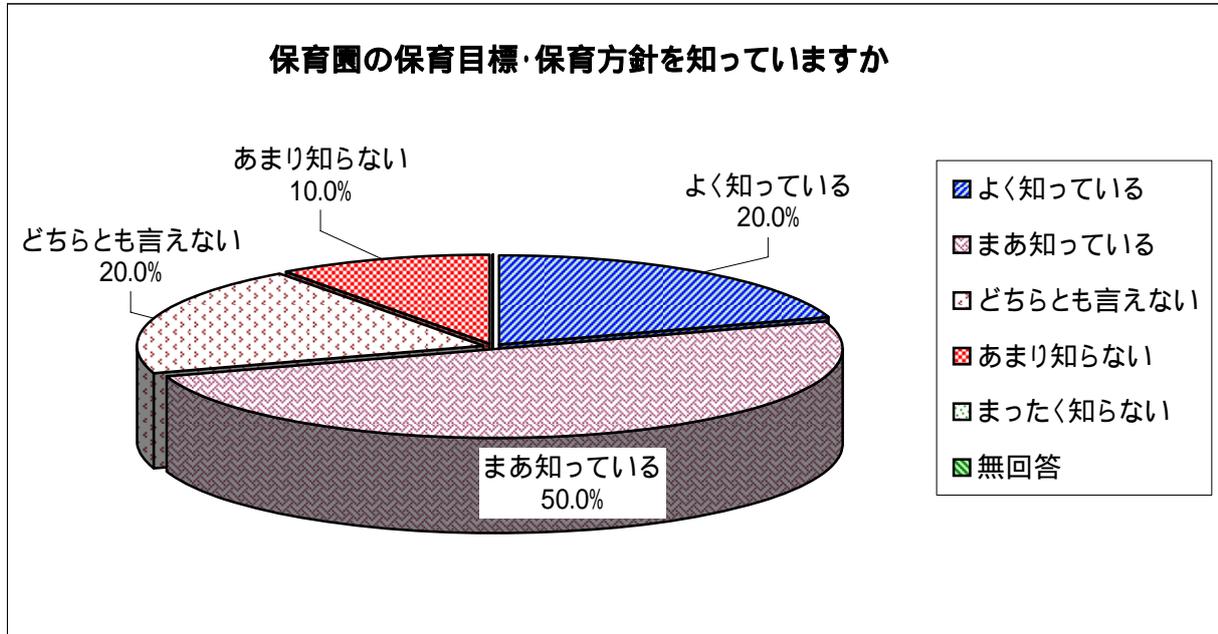
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	20.0	50.0	20.0	10.0	0.0	0.0	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

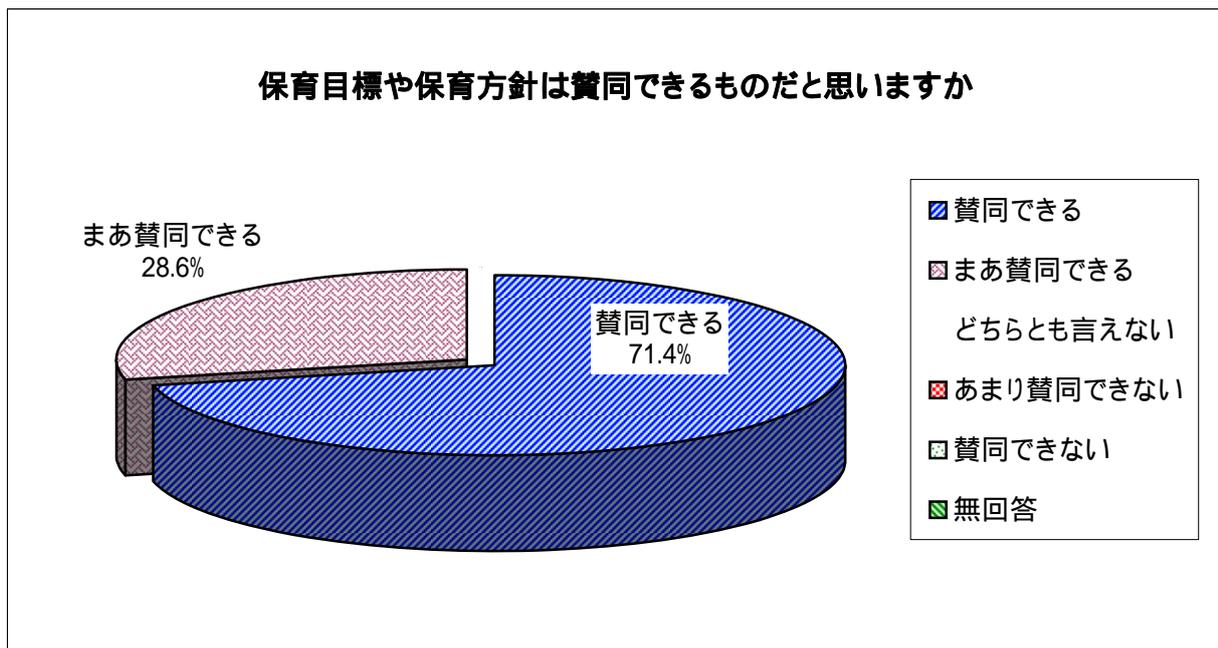


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	71.4	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について

問2 入園時の状況について

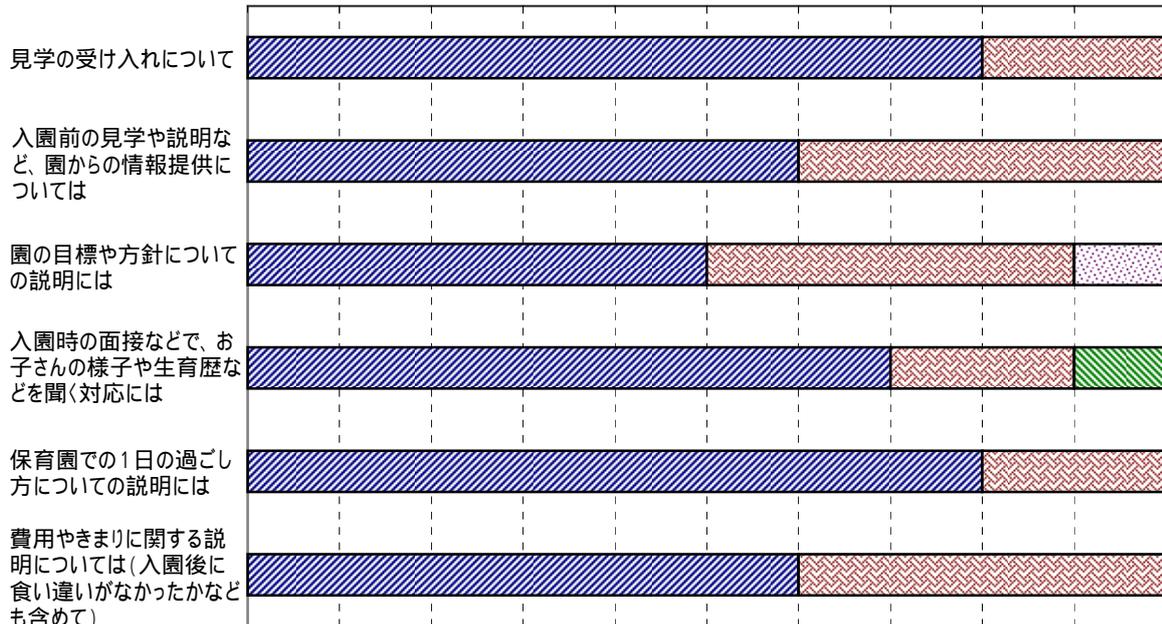
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	50.0	40.0	0.0	0.0	10.0	0.0	100
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	70.0	20.0	0.0	0.0	0.0	10.0	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100

入園時の状況について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問3 年間の計画について

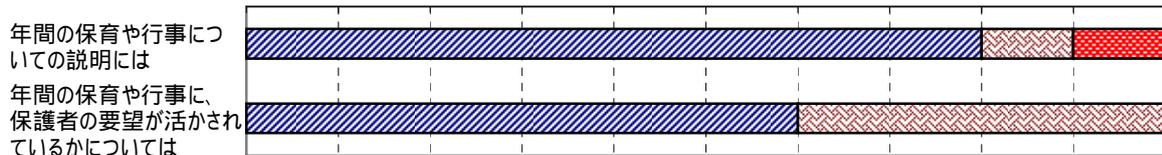
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	80.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100

年間の計画について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問4 日常の保育内容について

(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	70.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	70.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	90.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	100
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もっているかについては	80.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100

日常の保育内容「遊び」について



(%)

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	70.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	100
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	80.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	100
お子さんの体調への気配りについては	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	80.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	100

日常の保育内容「生活」について



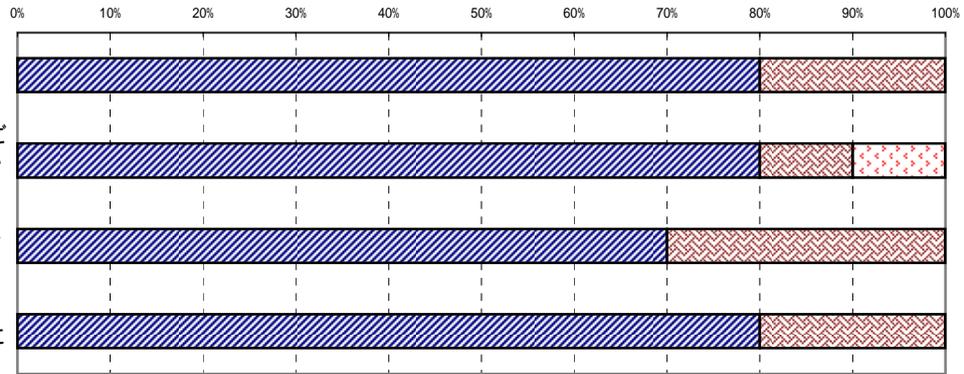
問5 快適さや安全対策などについて

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	80.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	100
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	70.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100

快適さや安全対策などについて

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



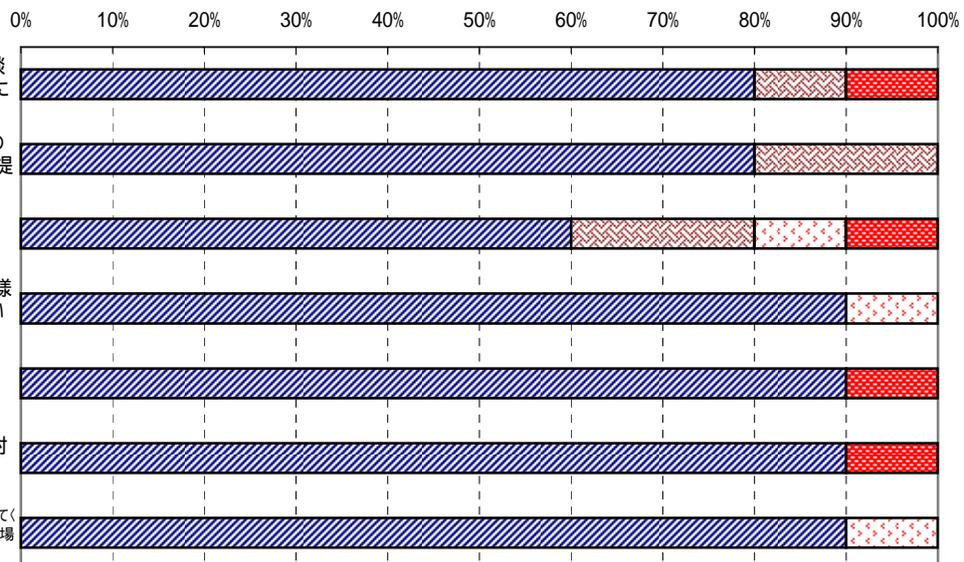
問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	80.0	10.0	0.0	10.0	0.0	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	60.0	20.0	10.0	10.0	0.0	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	90.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	90.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	100
保護者からの相談事への対応には	90.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	90.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	100

園と保護者との連携・交流について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答



問7 職員の対応について

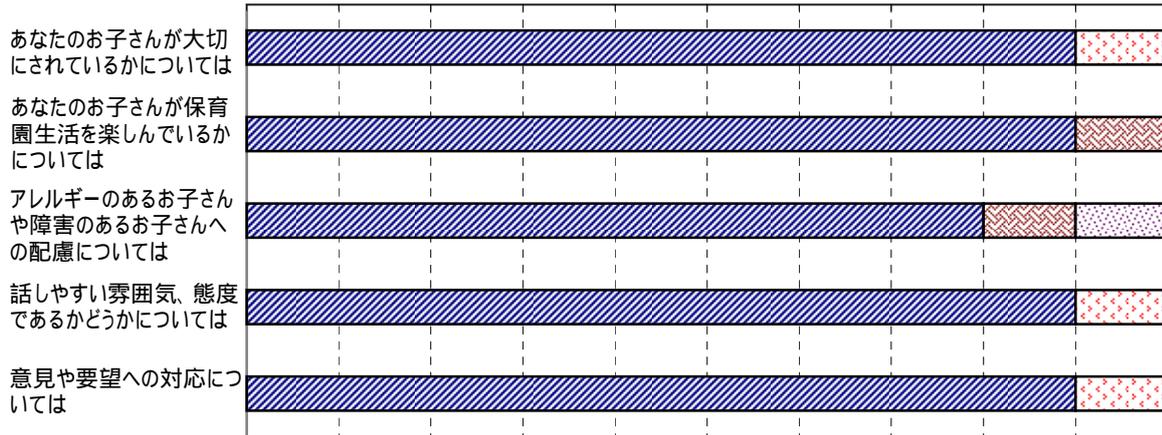
(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	90.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	80.0	10.0	0.0	0.0	10.0	0.0	100
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	90.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	100
意見や要望への対応については	90.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	100

職員の対応について

■満足 ■どちらかといえば満足 □どちらかといえば不満 ■不満 □その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



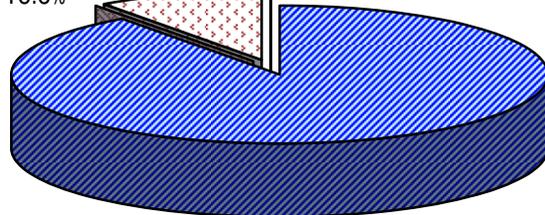
問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

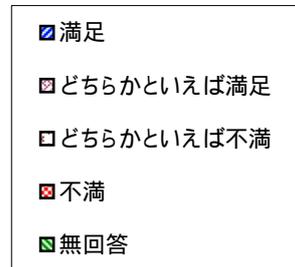
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	90.0	0.0	10.0	0.0	0.0	100

総合満足度

どちらかといえば
不満
10.0%



満足
90.0%



利用者（園児）本人調査 分析

【ペガサス夜間保育園】

観察調査 1月14日（水）11：00～13：40、18：30～21：30

1月16日（金）9：10～13：00

観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

保育室、クラス編成、保育時間について

園舎には、併設のペガサス新横浜保育園も入っていて、外階段を上って3階にペガサス夜間保育園の玄関があります。玄関を入るとそこは大きいワンルームで、その向こうはペガサス新横浜保育園とも共用している広いランチルームとなっています。ワンルームからランチルームに通じる出入り口は、遮光カーテンがかかっていますが、カーテンは普段は開いていて、保育室を明るく広い感じにしています。ワンルームは低い棚で2つに区切られ、それぞれ8名の乳児クラスと11名の幼児クラスの保育室になっています。

午前11時を過ぎると登園時間のピークになり、ほとんど全員が集まります。夜は24時までが保育時間ですが、乳児の大半は19時ごろまでには帰宅します。幼児も20時ごろには約半数になります。

登園時と朝の集会

<登園時>

朝、人数の少ない時間は、幼児クラスと一緒に遊びますが、個別対応に近いゆったりとした感じでした。隣のランチルームでは、保育士が月齢の低い子ども1人に離乳食を食べさせていました。1週間ほど休んだ後の登園だったため、子どもの様子を見て、ひざに抱いて食べさせていましたが、子どもは残さずによく食べていました。

11時を過ぎると、次々と子どもたちが登園してきます。人数が多くなるとそれぞれのクラスに分かれました。幼児は自分の棚にクレヨンや粘土、お絵描き帳があり、それぞれ好きなものを出してきて、自分の遊びをしていました。乳児では母親と別れるのがつらく、トイレに行くのをいやがる子どもがいました。母親が「トイレが終わるまで待ってるからね」と言うと、子どもは急いでトイレに行き、戻ってきて、両手で親の両手とパーン、パーンとタッチをして、「バイバイ」と、すんなり別れられました。

<小さな集会>

ほとんど全員がそろったころ、乳児クラスはリーダー保育士が手遊びや紙芝居を始めます。子どもたちは畳スペースに一列になって座ります。ほかの保育士も子どもと一緒に座って、全員に気を配ります。子どもたちはただ見たり聞いたりするだけでなく、自分たちもお話しに入って「大きくなあれ」と声をかけたりして、絵本や紙芝居に参加します。

幼児クラスは保育士が「お片付けの時間だよ」と言い、一緒にブロックなどを片付けます。子どもたちは帽子をかぶり、コートを着て、長いベンチに座りました。保育士が子どもに向き合って座り、連絡ノートを読みながら、家でのことや今日のお迎えの時間などを子どもたちと話し合います。その間に登園児が増えてきます。みんなでお茶を飲んでそろってランチルームへ行きました。園長と主任が時々両クラスの朝の様子を見に来ていて、保護者が門のチャイムを鳴らすと対応したりしていましたが、子どもたちがランチルームへ行った後、連絡帳に目を通していました。ランチルームでは集会です。子どもたちは11人になっていて、畳スペースに座り、ピアノに合わせて歌を歌います。朝のあいさつをして、今日の天気、何月何日、何曜日かを言い、今日の予定を話し合います。そしてすぐに今日の目的地、比較的近場の公園に出発しました。

お散歩

集会の後は天気が悪くない限り、どちらのクラスも必ず散歩に出かけます。大半が11時を過ぎて登園する子どもたちですが、昼食前に外に出て気分を入れ替え、体を動かし、汗を流し、さっそうとした気持ちになって、おいしく食事をするためです。そのために昼食の時間は柔軟性を持たせています。近辺には大きい川の土手が散歩道になっているほか、公園もたくさんあり、お散歩マップには目的地が13ヶ所もあります。

乳児クラスはこの日はバギーも使い、子ども7人、保育士3人で土手の広場へ行きました。散歩の前にコートを着ますが、2歳児はほとんど自分で着られます。なかなかうまく袖に手が入らない子どもがいて、もう一人の子どもが手伝ってあげようとする、「自分でやる」と断っていました。土手の広場に着くと、みんなそれぞれに思いっきり体を動かしていました。霜柱を見つけて手でつかみ、保育士に見せにくる子どもがいて、他の子どもも霜柱を取って投げたりし、そのうちに2、3人で一緒に霜柱の上でジャンプして、ザクツという感触を楽しんだりします。年齢の小さい子どもたちは、まず広いところで歩くことを楽しみますが、大きい子どもたちのすることもよく見えています。ボールを投げたり蹴ったりしているのを見ると、自分もボールが欲しくなります。離乳食を食べていた子どもは帰り道に眠り始め、園についてからもそのままお昼寝になりました。園に到着すると、子どもたちは保育士と一緒に門の前で「チチンプイプイ」とおまじないをかけます。するとロックしていた門が開きました。小さい子どもも3階の保育室まで一生懸命に外階段を上りました。

幼児クラスは玄関前で軽い体操をし、年上の子どもと年下の子どもが手をつないで出発です。保育士は1人ですが、主任が加わりました。公園では集団遊びです。まず「色探しゲーム」で、公園内の色を探して走って行きます。鬼が「白」と言うと、白い看板などを見つけて走って行き、まず始めに「白いもの」を捕まえた子どもが鬼になります。さらに次々と「青」「オレンジ」「黒」などを探します。続いて「リレー」ですが、子どもたちで相談して2チームを作りました。「ヨーイドン」でまず2人が走り出し、一生懸命に頑張ります。結局、とてもゆっくり走る子どもがいるチームが負けましたが、チームの仲間は怒ることなく、その子どもに声援を送っていました。

昼食まで

散歩から帰るとトイレです。昼食前は着替えやトイレの介助、食事の準備と保育士は忙しく、主任が来て手伝っていました。乳児も幼児も同じトイレを使っているの、子どもたちは年上の子どもの様子をよく見えています。年下の子どもたちはスムーズにオムツがとれ、男の子は立ち便器の使い方を自然に学習するようです。トイレが終わると、いつものように手遊びや絵本などを楽しんでから、ランチルームへ行きます。乳児クラスでは、一人ひとり好きな動物になって、ウサギになった子どもはピョンピョン跳ねながら、手を洗い、ランチルームへ行きました。

昼食

広いランチルームでは、すでに併設のペガサス新横浜保育園の幼児が、クラスごとのテーブルで食事をしています。夜間保育園の子どもたちの人数は、全員でペガサス新横浜保育園の1クラス分ぐらいですが、3グループに分かれます。乳児、3歳児、4・5歳児それぞれのグループです。12時半過ぎなので、ペガサス新横浜保育園の子どもたちは食事を終えるところで、着替えが始まりざわざわしていますが、特に影響を受けることもなく、こぢんまりと食事が始まります。乳児は、時々保育士に手伝ってもらって食べています。3歳児グループ、4・5歳児グループは、それぞれお話しなどしながら比較的静かに食事をし、お替りは保育士によそってもらいます。残す子どもはいませんでした。終わった子どもは全員が食べ終わるまで待ちます。待つ間、「手品でーす」とおしぼりをたたんだり開いたりして、笑い合う子どもたちもいました。全員が食べ終わるとデザートになり、そして食器を片付け、歯磨きをし、保育士のひざで仕上げをしてもらっていました。

夜間のようす

夕食は10人ぐらいで食卓を囲みました。栄養士が様子を見に来て、しばらく子どもたちとメニューについて話したりして過ごします。ゆったりとした雰囲気、保育士は冗談をとぼしたりしながら、子どもたちと和気あいあいと食事を共にします。

その後はみんな乳児クラスに行って、ブロックをたくさん広げて、保育士も一緒にロボットなどを組み立てました。子どもたちはブロックに集中し、できたもので遊んだりします。年長児にブロックの達人がいて、他の子どものリクエストに応じて、ピザパイの配達バイクを作っていました。これがまた遊びの道具になります。だんだんに保護者のお迎えが来て子どもたちは帰っていき、夜の体制になっていきます。20時過ぎると子どもは4、5人になり、保育士は3人です。そのうちの1人は掃除をしたりお風呂の用意をしたりしますが、保育室はのんびりした1対1対応に近い感じになり、保育士はお父さん、お母さん、あるいはお兄さん、お姉さんに近い雰囲気になります。子どもも保育士にまわりついたり、ひざに乗ったり、保育士の髪をほだいて三つ編みをしたがったり、と甘えます。「片付けイヤ」とわがママを言っても、柔軟に受け入れられていました。

お風呂はちょうど家庭のお風呂場のように、1人の保育士が子どもを2人ずつ入れていました。お風呂から出てくると1人の保育士が待っていて、ひざに寝かせてドライヤーをかけてあげます。全員のお風呂が終わると、寝る準備になります。保育士がランチルームに布団を運び、絵本を読み聞かせて就寝になりますが、広いランチルームの端っこでのお布団はいくらか寂しげでした。

まとめ

子どもたちはなごやか穏やかで、保育観察中、けんからしいけんかは見られませんでした。逆に、勢いよく競い合う姿もあまり見られませんでした。保育士も全員なごやか穏やかで、子どもの気持ちを受け止めていますので、子どもたちは安心して信頼し、甘えることもできる雰囲気でした。保育士に見守られて、異年齢の子どもたちが自然に受け入れ合い、助け合い、長い保育時間を比較的ゆったりと過ごしています。

事業者コメント【ペガサス夜間保育園】

第三者評価を受けて

まず、自己評価の作業にあたり、みんなで読み合わせを行い、一つひとつ丁寧に時間をかけて話し合いました。

その結果、膨大な時間を費やしましたが、それだけの時間をかけたおかげで、職員同士の中では、今まで、当たり前と思っていたことが共有出来ていなかったり、それぞれの職員の思い込みで保育をしていたり、また、統一性がなかったりしていた諸々の部分が整理されました。普段の職員会議や打ち合わせ等では、目先の課題が優先されてしまうため、一つのテーマや課題について、じっくりと検討しあうことができなかつたので、今回はとても良い機会になりました。

調査員の方たちも、夜間保育の実態をできるだけ理解してくれようと心掛けていただきまして、入浴や夜の仮眠、深夜の降園まで、熱心に観察していただき大変感謝しています。

自分たちの仕事が、客観的に評価されることについては、初めての経験でもあり緊張しましたが、最終的には、私たちが大事に思っている部分をきちんと評価していただいたので、嬉しく思っています。

本園は、今年度で丸6年となりますが、この時期に第三者評価を受けたのは、結果的には良かったと感じています。これからも、この評価結果を検証しながら、子どもたちのために質の良い保育に頑張っ
て参りたいと思います。ありがとうございました。

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.jp/kenkou/jigyousyajoho/hyoukaall.cgi>

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.k-daisansyahyouka.org/>

特定非営利活動法人



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま 評価事業部

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0013 横浜市中区住吉町二丁目26番地 洋服会館2階

TEL:045-222-6501

FAX:045-222-6502

<http://www.shimin-sector.jp>
